

伝える 広がる EM生活

母から娘そして孫へ世代を超えて受け継がれていく笑顔

娘

母

母がいつからEMを使い始めたのか記憶にありませんが、私が鮮烈に覚えているのは、小学生の頃。ある日わが家に、青い蛇口の付いた白い容器が登場し、母から「こんどからは生ごみはここにに入れてねー」と言われて、ミカンの皮などを容器に入れていました。「入れたらEMボカシもかけてねー」とか、たまに「お水も抜いてねー」と言われていました。EMで発酵させた生ごみは畑に還していました。最初は、母の趣味に付き合われているという感覚でしたが、ある冬の朝、うちの畑から湯気が立ち昇っているのを見て、「ああ、EMって良いものなのかも」と思いました。ふかふかした温かい土から湯気が出ていたのは本当にうちの畑だけだったんです。

私も、家のあちこちでEMを使っています。うちでは玄米を食べるので、12時間浸漬するときにEM活性液を入れます。ごはんを炊くときにはEM・X GOLDを入れてます。子どもの飲み物にもEM・X GOLDを少し入れています。

子どもがケガをしたときは、傷口に消毒液の代わりにEM・X GOLDをスプレーして洗っています。

キッチンカウンターに置いてあるザリガニの水槽の中にはEMセラミックスを置いて、EM活性液をほんの数滴入れています。普通はドブくさい臭いがして部屋の真ん中にザリガニなんてとても置けないんですが、EMを使うと臭いが抑えられるのが不思議です。

震災をきっかけに
名古屋へ移住。
ママ友たちと
楽しくEM生活を
実践中。

相良 歩実さん
(28歳)

なごみ
和希ちゃん
(4歳)

亮介くん
(1歳)



茨城県在住。
ご主人が営む
接骨院のスタッフや
家族・仲間とともに
EM生活を実践。

相良 正子さん
(53歳)



「家族に安心な野菜を自分で作って食べさせたい」と思ったことがきっかけで、18年前からEMを使っています。その当時は、まだEMを増やして使うという活性液の発想もなかった頃。生ごみをバケツに入れて、たっぷりのEMボカシで和えて発酵させ、畑の肥料にしていました。その頃から今まで一度も発酵が上手く行かなかったことはありません。裏庭を雑草が生い茂っている荒地のような状態からEM生ごみ肥料を埋めて少しずつ畑にしていきました。気がついたら、土が柔らかくふかふかになっていましたね。

EMのもう一つ良いところは、家庭の台所、洗濯機、お風呂、掃除や車拭きなどで使っていくと周りの環境もきれいになる事です。それがEMをずっと使い続けている理由です。EMを使えば使うほど水や土や空気や体がきれいになっていくことを確信しています。乳酸菌、酵母、光合成細菌が共生するEMが周りの環境やからだの活性酸素を無害化するというので、EMって改めてすごいなと思います。

今のマイブームはEM・X GOLDを入れて発酵ジュースをつくることです。近所に住む私の母や、うちの接骨院で働いてくださっている方たちにもすすめています。発酵ジュースはおいしいし、健康にいいと、みんなに好評です。



ついでにEM・X GOLDをお口にシューッ！



常備しているEM・X GOLDのスプレーで傷口を洗います。



キッチンカウンターの上のザリガニ。お部屋は全然臭いしません。



正子さんが作ったブルーベリーとリンゴの発酵ジュース。甘くて後味スッキリ。



生ごみ肥料を入れている畑。土は足が沈みそうなほどふかふかです。



18年前から使っている生ごみ発酵バケツ。娘の歩実さんが小学生の頃の初めてのEM体験として鮮明に覚えているバケツです。EMボカシをたっぷり使って失敗は一度もありません。

妊娠8ヶ月で原発事故。母子だけで避難生活

歩実さんは茨城県の実家で両親と夫と娘の5人で暮らしていましたが、妊娠8ヶ月の時に東日本大震災に遭遇。2日後の2011年3月13日には三重県の友人の家に行き、1週間ほど避難しました。しかし、原発事故は一向に収束する気配がなく、ウィークリーマンションを借りて、様子を見ていましたが実家の近くの牛舎の牛乳が出荷停止になったり、実家の水道水も一時期放射性ヨウ素が出て飲用禁止になったりと、だんだんと明らかになる事実を知り、戻ることはできませんでした。そうこうするうちに、出産の時期が迫り、迷った末、茨城に戻らず名古屋市助産院で出産しました。



発酵ジュース大好きだよねー。今入れるから待ってねー。

引っ越し先でのEMとの再会

幼稚園への行き帰りに車を運転していて、偶然EMの看板を発見。近所に(株)EM生活の事務所と店があることを知った歩実さん。その出会いに不思議なつながりと縁を感じます。歩実さんは幼稚園のママ友にEM生活ショップを紹介し、今ではお互いにEMの楽しい使い方や新しい発見などの情報交換をしています。「普通の幼稚園に通っていたら、ここまでEMのママ友はできなかったと思います」。健康に対する価値観が似ているママ同士でEMの良さをすぐに共有することができたと語る歩実さん。子どもたちにもEMは浸透していて、幼稚園でままごとをして遊ぶ子どもが「EM活性液ありますか?」と言っているのを聞いて思わず笑ってしまったことも。

「EMを真剣に使い始めたのは、やっぱり子どもが生まれてからです」。小さい頃からEMのある生活をしてきてEMの良さはよく知っていた歩実さん。けれど、彼女を本気にさせたのは、子どもの健康を守りたいという強い思いからでした。母親の子を思う気持ちに優るものはありません。お子さんにとっては、生まれた時からEMは生活の一部。この子たちが将来どのようにEMと暮らしていくのか、楽しみです。



EM生活ショップでいつもお買い物しています。



震災後、EMはますます欠かせない生活アイテムに

正子さんが大切にする生き方は、安心な野菜づくりと環境への配慮。農薬や化学肥料は体に良くないということを体感し、EMを使い始めました。その他にも、白米や白砂糖は摂らず、玄米と無農薬の野菜が中心の食事にするなど健康に気を配っています。茨城県に住む正子さんにとって、

震災以降、放射能による健康への影響も心配になり、EMはますます欠かせないものになっています。この1～2年の間に健康を考えるセミナーや勉強会に参加して、熱心にEMを学ぼうとする若いお母さんたちや、EMが好きで健康と環境を大切にする同じ価値観を共有できる人たちとの出会いがありました。「EMを使い続けてきてよかったと思うのは、たくさんの仲間ができたことです」。電話やインターネットで遠く離れた仲間とEMの使い方や情報を共有したり、EMのセミナーなどの準備のお手伝いでEM・X GOLD入り発酵ジュースを作ったりと、新しい楽しみが増えました。EMで繋がった仲間との交流が、正子さんの原動力になっています。

家族や親しい人たちと一緒に分かち合えるEMの楽しさ

正子さんの影響で、近所に住む正子さんの母、岩田ミトリさんも、以前は生ごみをEMで発酵させて使っていました。体力的にバケツを運ぶのが重くなった現在は、主に発酵ジュースやEM活性液を作って活用しています。祖母、母、娘、孫と、親子4世代でEMに親しんでいます。

正子さんは、ご主人が開院する接骨院のスタッフの皆さんとも家族同然におつき合いされていて、一緒にEMの楽しみを分かち合っています。ご夫婦で相良接骨院に勤める新井信夫さん・とし子さんご夫婦は、以前から野菜を無農薬で育てており、それを知った正子さんから「EM発酵液を使ってみたら」と3年ほど前に教えてもらったのがきっかけでEMを知りました。信夫さんはそれほど強い関心はありませんでしたが、最近、茨城県で開催された講演会で比嘉先生の話聞き、興味が出たと言います。とし子さんのEM・X GOLD入りの手作り発酵ジュースも飲んでみたところ、「最初は便が臭くなったような気がしたけど、数日経つと臭いがなくなって、スッキリです」と楽しく語ってくれました。とし子さんは、最近出産した娘さんにも発酵ジュースを勧めたところ、産後ずっとおなかの調子が悪かったのが、数日でスッキリしたと喜ばれたそうです。

太田カツノさんも相良接骨院の元スタッフ。正子さんの畑を手伝いながら自然とEMに触れていました。今は、EM・X GOLDと発酵ジュースを飲んでます。年2回、超音波検査に通っていますが、ドクターから「きれいな腸ですね」と褒められるのが嬉しいそうです。



後列左から正子さんのご主人(相良健さん)、娘の歩実さんの夫(相良昭仁さん)、新井信夫さん・とし子さんご夫婦。前列左から相良正子さん、正子さんの母(岩田ミトリさん)、太田カツノさん。